



九 地 整

設計比較対象に3技術 第4回新技術活用評価会議

九州地方整備局は3月26日に開催した第4回新技術活用評価会議で、6技術を事後評価し、3技術を設計比較対象技術に指定した。

今回、事後評価を行ったのは①パワーブレンダー工法(粉体噴射方式)②WILL工法(スラリ揺動攪拌工)③セラミックス防護板「チタンガード」④法面緑化工「土

壌菌工法」⑤トップベース工法(コマ型基礎工法)⑥高強度帯状ジオシンセティックパラリンク。このうち、技術の優位性が高く安定性が確認されている技術(設計比較対象技術)として、パワーブレンダー工法、高強度帯状ジオシンセティックパラリンクが指定された。今後、概略設計、予備設計または詳細設計において、設計比較の対象となる。

設計比較対象技術に指定された3技術の概要等は次のとおり(①工種②NETIS登録番号③開発業者④技術の概要)
▼パワーブレンダー工法(粉体噴射方式) ①軟弱地盤処理工②CB-980019-A③加藤建設④スラリー添加では改良強度を得るのが難しく富配合になる土質(底質土、高有機質土、高含水比粘性土等)に、セメント、セメント系固化材、石灰系固化材の改良剤を粉体圧送し、トレンチャ一式攪拌機にて、原位置土と鉛直方向にきめ細かに切削し、改良材と攪拌

混合する技術
▼トップベース工法(コマ型基礎工法) ①軟弱地盤処理工②QSI-990016-V③マイコマセブン、全国マイ独楽工業会会員社④コマ形のコンクリートブロックを用いる軟弱地盤を改良する工法。その特殊な形状と間詰砕石の相乗効果により、上部構造物の荷重を基礎下部地盤へ広く分散し、地盤の側方変形を抑制することによって支持向上、沈下抑制、不同沈下抑制効果を発揮する。

▼高強度帯状ジオシンセティックパラリンク ①同②HR-990111-V③エターナルプレザープ、岡三リビック、東京インキ④パラリンクは、高強度ポリエステル長繊維を平行にかつ密に芯材として用い、それをポリエチレンで被膜した帯からなる高強度ジオテキスタイル。それを用いたジオパラリンク敷網工法は、軟弱地盤上盛土造成時の安定検討時において不足する抵抗モーメントを補う工法で盛土下部に敷設するもの。